

事務所スタッフ独り言 6 SN1987A

SN1987A は天の川銀河の伴銀河である大マゼラン雲内に発見された超新星である。1987年に初観測されたので1987Aの符号がつけられた。1986年ハレー彗星が来た翌年のことだ。そっちの世界では大騒ぎになっただけで知らなかった。超新星爆発時に放出されたニュートリノをカミオカンデが捉えた事で小柴昌俊先生はノーベル賞を受賞したことで知られている。それはともかく、なんといってもこの美しい真珠の首飾りのような光り輝き、造形のような三重輪がたまらない。

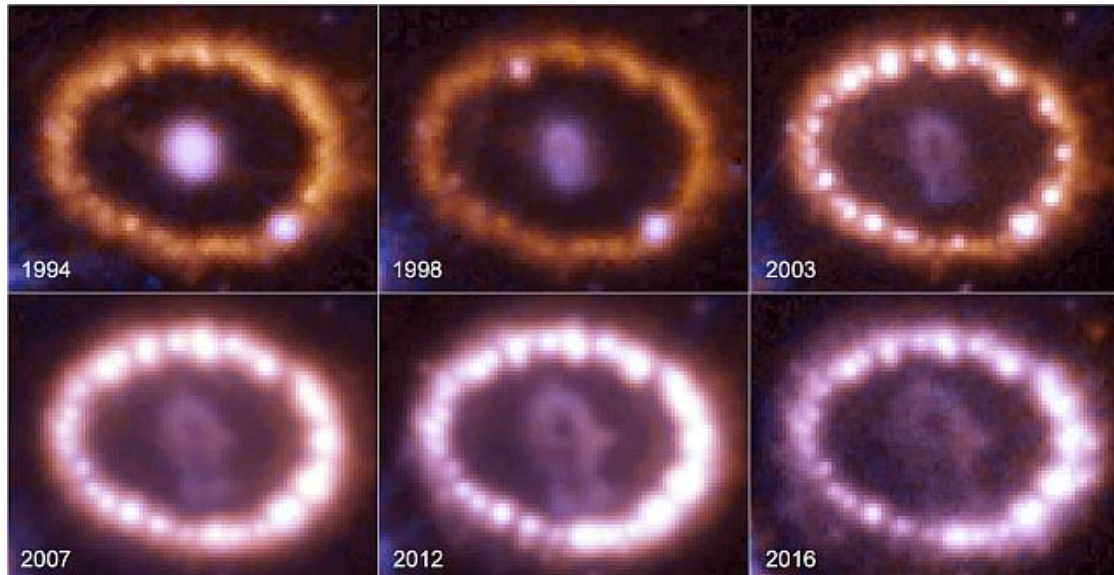


写真1. 1994年から2016年にかけての光の変化（ハッブル望遠鏡：HST）
後の爆発エネルギーが追いついて初期の離散物質を光り輝かせている姿

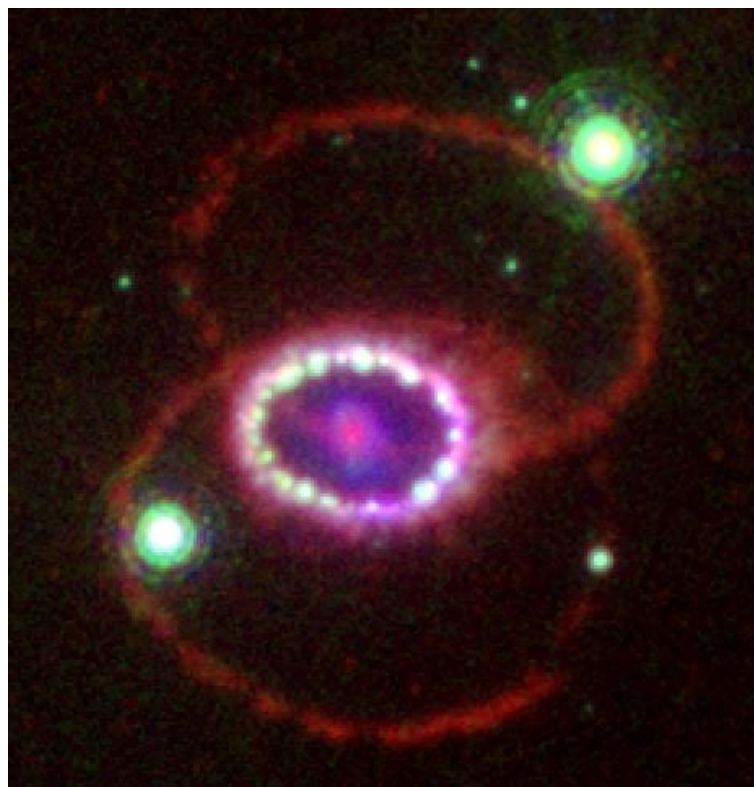


写真2. 2010年にHSTが捉えた三重リング

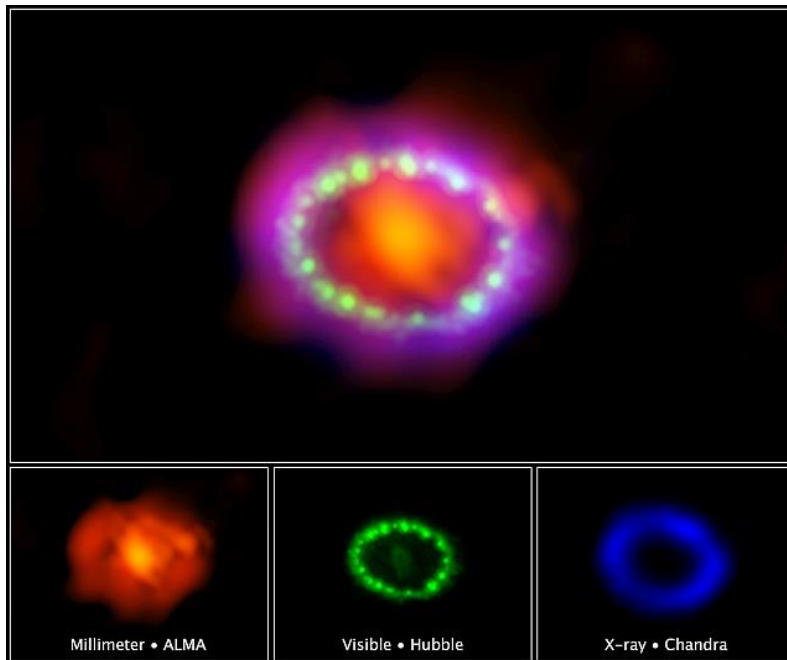


写真3. 2017年HST、チャンドラ、アルマが捉えた各観測波長



写真4. そして今回（2023年）JWSTが近赤外線カメラ（NIRCam）で捉えた最新画像
素人の己等には解らないがこの写真から各種の構造解析が寄り進むのだという

興味のある人は、天の川銀河にぶら下がっている大マゼラン雲を覗いてみよう。

ちなみに藤原定家が見た超新星はSN1006となっているが、当時は1006年と1054年の2つの記録があるらしい。紛らわしいなあもう。

1054年超新星は別名「かに星雲」あるいはM1（メシエ1）ともいう。実は藤原定家はこの超新星を見ていないのだ。出生年は1162年だからまだ生まれていなかった。明月記の原本を確認できた京都学園の臼井正先生によると、原本の記述部分は書体も異なる官人作成文書だったそう。1230年に現れたらしい超新星（このとき定家69歳）に関わる記述時に1054年官人作成文書を参考文献として挟んだ（らしい）。ますますややこしいなあ